

八代市立第一中学校第1学年そる行けえ一中タイム(総合的な学習の時間) 学習指導案

期 日 平成21年9月30日(水)第5校時
場 所 八代市立第一中学校
指導者 教諭 宮田 正男

- 1 単元名 「八代から地球環境を考えよう」 (全35時間計画)
～「自分の学習課題を設定しよう」～ (4時間計画)

2 単元について

- (1) 私たちが生活を営むということは、自然環境に対し少なからず負荷をかけるということである。ゴミ、生活排水、排気ガスなど、私たちの生活から排出されるものが、地球温暖化、オゾン層の破壊など、地球規模の様々な環境問題を引き起こしている。これは、豊かで便利な生活を求める私たちの生活様式によるところが大きい。様々な環境問題は、私たち自身の身近な問題であるとともに、他者と協力しながら地球規模で考えていかなければならない、緊急の課題である。

本単元は、環境問題を自分たちの問題としてとらえ、学んだことを生活に生かし、自分たちのふるさと「八代」を愛し続ける子どもに育っていくことをねらいとして設定したものである。地域の環境の実態について自分たちの考えた方法で調べたり、地球全体の環境について考えたりしていく過程を通して、子ども自らが地域や地球の中でどう生きていくかを考え行動する心と態度が育つと考える。

- (2) 本単元は、「八代から地球環境を考えよう」の中の小単元として設定している。

学習過程	小単元のつながり
【課題設定】	「自分の学習課題を設定しよう」(本単元・4時間)
【情報収集】	「調べよう・体験しよう」
【整理分析】	「調べたこと・体験したことを整理しよう」
【まとめ表現】	「八代一中から、環境メッセージを発信しよう」
【振り返る】	「これまでの活動を整理し、自分の学びを振り返ろう」

- (3) 本単元に係る本学級の生徒(38人)の実態は、次のとおりである。

- 「環境」について学習した経験として、小学校高学年の社会、理科及び総合的な学習の時間を中心に、「ごみ問題」「水俣の学習」「地球温暖化」「オゾン層の破壊」「森林破壊」等をあげている。小学校での環境学習が、本単元の学習への意欲付けにつながると考える。
- 「環境」に関わる知識としては、生徒の半数以上が「地球温暖化」「ごみ問題」について説明できるとしている。また、「森林破壊」「大気汚染」「オゾン層の破壊」については、約3分の1の生徒が説明できると答えている。
一方、「土壌汚染」「有害化学物質」「生態系の破壊」「ヒートアイランド現象」について説明できる生徒は、数人程度である。個々の環境に関する課題が、それぞれつながり絡み合っており今日の地球環境問題へと広がっていることを意識させる必要がある。
- 日常生活の中で、「環境問題」を解決するために、生徒が実践していることは、「電気をこまめに消す。」「エアコンをできるだけ使わないようにする。」「ゴミを出さないようにし、無駄なものは買わない。」「マイバッグを使用する。」「ペットボトルをリサイクルする。」などである。環境問題の解決に向けた取組に関心を持って実践しているが、そのことが、様々な地球環境問題につながっていることに目を向けている生徒は少ない。

- (4) 指導にあたっては、次の点に留意する。

- 言語活動と体験活動とを結び付けた指導の工夫
- 「課題設定～情報収集～整理分析～まとめ表現～振り返る」という探究の過程に、言語活動を位置付けた指導計画の在り方
- 他者と協同して課題を解決しようとする学習活動の展開
- 生徒一人一人の思いや願いを大事に取り扱うとともに、「ブレインライティング」や「KJ法的手法」を、主体的な学習活動が展開できるように工夫する。

〈人権教育の視点〉

- ・ 身近な環境問題を取り上げるにあたっては、各生徒の家庭環境に十分配慮する。
- ・ 課題別のグループ編成にあたっては、一人一人の課題意識を大切に、生徒が選んだ内容別にグループができるように、人数や男女比など柔軟に対応する。

〈思考力、判断力、表現力の育成に関する視点〉

- ・新聞やパソコンの活用など、必要に応じて資料を提供したり、プレゼンテーションソフトの活用についてアドバイスしたりする。
- ・新聞記事を活用した活動を通して、書かれている内容を適切に読み取る力を付けるようにする。

〈熊本型授業の具体的展開に関する視点〉

- ・各単元の指導計画の中に、「徹底指導（「徹底」と表記）」と「能動型学習（「能動」と表記）」を明記する。
- ・「能動型学習」を中心に展開する活動であっても、必要に応じて個別にかかわっていくようにする。

3 単元の目標と評価規準

単元の目標	○自分と環境とのかかわりを理解し、身近な自然や自分たちの住む八代を愛し、大切にしていける心を持つ。 ○よりよい地域環境を自分たちでつくり出そうとする力や態度を育てる。
計画する力	○学習課題を決めることができる。 ○学習の計画を立てることができる。
探究する力	○課題を見付け、課題解決に必要な情報を収集し、課題解決に取り組み、まとめ・表現するという活動を繰り返すことができる。
ふれ合う力	○他の人と協力して活動を進めることができる。 ○他の人の考えをしっかりと聞くとともに、自分の考えを分かりやすく伝えることができる。
行動する力	○学習したことを、行動に移し、生活に生かすことができる。

4 指導・評価の計画（4時間取扱い）

次時	学 習 活 動	指導上の留意点 ※言語活動	評価項目（方法）
1 1	○最近の新聞記事の中から、「環境」に関する記事を集める。 ・2人組で1日分の新聞から記事を探す。 ・見付けた記事の内容を紹介し合う。	※言葉の意味や漢字の読みが分からないときは、すぐに調べられるように辞書を準備しておく。 ・見付けた記事を紹介し合うことで、毎日の新聞で、環境問題が取り上げられていることに気付くようにする。	【関心・意欲・態度】 「環境」に関する記事を見付けることができたか。 （新聞記事、付箋紙）
2 1 （本時）	○「地球環境問題」を取り上げた新聞記事を読み、そのタイトルについて話し合う。 ○自分たちの身の回りの環境問題について話し合う。	・記事の内容から、取り上げられている「生態系破壊」の課題を自由に出し合う。 ※自分の考えたタイトルと、実際のタイトルを比べることを通して、使われている言葉の意味を考えるようにする。 ・「ブレインライティング」や「KJ法的手法」を用いて、4人のグループで協力しながら自由な発想でまとめることができるようにする。	【知識・理解】 新聞記事の内容を理解し、自分の考えた言葉でタイトルを付けることができたか。 （学習シート） 【気付き】 自分たちの身の回りの環境問題に気付くことができたか。
3 1	○自分が取り組みたい「環境問題」に関するテーマを決める。	・同じテーマの生徒4～5人でグループを作り、活動できるようにする。 ・必要に応じて、各テーマに関する情報収集の方法についてアドバイスする。	【関心・意欲・態度】 取り組みたい課題を決めることができたか。 （観察）
4 1	○活動計画を立てる。 ・校内での活動 ・校外での活動 ・グループごとの活動 ・全体の活動（行事等）	・今後の学習予定を提示し、グループごとに見通しを持って計画を立てることができるようにする。	【表現・技能】 課題解決に向けた今後の活動計画を作ることができたか。 （学習シート）

5 本時の学習

(1) 目標

- 身近な「環境問題」について話し合う活動を通して、私たちの身の回りには、様々な環境問題があることに気付く。

(2) 展開

過程	学習活動【学習形態】	徹底能動	主な発問・指示等	教師の指導及び評価 ※言語活動	備考
導入 20分	1 「海の生態系破壊」を取り上げた新聞記事を読み、そのタイトルについて話し合う。 【個人】【一斉】	徹底	T：環境に関する記事をよく読んで、大切だと思う言葉に線を引いてみましょう。 T：この記事に、あなたはどんなタイトルを付けますか。 T：実際のタイトルと自分が付けたタイトルを比べて、どう感じますか。 T：環境問題はお互いに関係し合っていますね。	○新聞記事のコピーを配り、内容を理解させる。 ※自分の考えたタイトルと、実際のタイトルを比べることを通して、使われている言葉の意味を考えるようにする。 ※新聞記事の内容を理解し、自分の考えた言葉でタイトルを付けることができたか。(学習シート)	新聞記事
展開 25分	2 自分たちの身の回りの環境問題について話し合う。 【グループ】 ①気付きを出し合う ②整理する ③まとめる ④発表する	能動	T：私たちの身の回りには、どんな環境問題があるでしょう。 C：マイバッグ運動 気候がおかしい ゴミ（分別・有料化・ポイ捨て）エアコンの設定温度 水の無駄遣い等	※「ブレインライティング」や「KJ法的手法」を用いて、4人のグループで協力しながら自由な発想でまとめることができるようにする。 ○身の回りにはどんな問題があるか、グループごとに発表する。 自分たちの身の回りの環境問題に気付くことができたか。	学習シート
終末 5分	3 学習したことの感想を書く。【個人】	能動	T：今日の学習の感想を発表しましょう。 T：次の時間は自分が取り組みたいテーマを決め、グループを作る予定です。	○次時の予告をする。	学習シート